

平成 25 年度「がんばる先生支援」 事業報告

<p>【研究テーマ】 「たがいに認め合い、高めあいながら、学習する子どもを育てる」 — 自尊感情を高め、確かな学力をつけるための各教科からのアプローチ —</p>
<p>【研究概要】 「若手教員の育成」および「児童の体力向上」を柱に研究に取り組んだ。 (1) 「若手教員の育成」では、校内若手教員研修組織として「ひかりの会」を結成し、メンターを中心に研修計画を立て、中堅・ベテラン教員・管理職と連携を図り、指導力向上、学級経営、児童理解などに取り組んだ。授業参観や相互参観、課題別研修会、個々の実践の検証などを中心に活動した。 (2) 「児童の体力向上」では、まず、児童の実態把握を行った。新体力テストと本校独自の運動アンケートを分析し、学校全体と各学年の傾向をつかんだ。そして、体育部・各学年において、児童の実態に即した課題を設定し、日々の体育指導について PDCA サイクルによる実践研究をすすめた。 なわとび週間やかけあし週間、たてわり遊びでの運動の取り入れ、体育の時間や休み時間に手軽に運動できる場の設定、なわとびやかけあしのがんばりカードの作成・活用などをとおして、児童一人一人がめあてをもって、自発的・積極的に体力向上に取り組めるような手立てを工夫した。 全国学校体育研究大会の「体づくり運動」および「ボール運動」の分科会に参加し、全国の先進的な実践事例に学び、研修成果を還元した。 (1)(2)のいずれにおいても、本事業予算を活用して実践に有効な教材教具を購入し環境整備を図り、具体的な活用方法について研修した。 さらに大学教授等を招聘しての授業研究会、校内外での研修会に積極的に参加し、指導力の向上に努めた。特に 1 月 22 日に実施した本年の研究活動の集大成としての公開授業・研究発表・講演会においては、大阪教育大学 学長 長尾彰夫様よりご講演いただき、見識を高めることができた。</p>
<p>【具体的な検証方法と明らかになった成果】 (1) 「若手教員の育成」 ア キャリアアップ&メンタリングシート 本校の実態に合わせた「ひかりの会キャリアアップ&メンタリングシート」を活用し、年間 4 回自己評価を記録し、これをもとにメンタリングを行った。 1 年間の取組みを振り返ったところ、メンティー全員が自己の成長を実感し、今後に向けての明確な改善目標を持つことができた。 イ 学校アンケート 児童を対象に実施した授業アンケートの結果を見ると、「授業がわかる」という項目では、24 年度より「よくあてはまる」は微増であった。また保護者からは授業内容を理解しているかどうかの項目については、「よくあてはまる」と「あてはまる」の評価は合わせて約 6 割あった。 ウ 授業アンケート 今年度 2 回実施した。多くの教員の評価は 2 回目の方がよいか、1 回目の評価を維持していた。 それぞれのアンケートを通じて、教員は「わかる授業」の構築を意識するようになり、「ひかりの会」でも積極的に研修に取り組むようになった。 (2) 「児童の体力向上」 ア 新体力テスト ほとんどの種目で全国平均に及ばず、特に反復横跳びとシャトルランで全国との差が大きかった。 学年ごとに種目を絞り 12 月に再度測定した結果、ほとんどの種目で全国平均を上回ることができた。教員の指導力向上により、動きのコツをつかんだ児童が増えたといえる。 イ 運動アンケート 7 月と 12 月に、本校独自の運動アンケートを実施した。比較の結果、ほとんどの学年で、体を動かすことが「好き」「まあまあ好き」と答えた児童の割合が増えた。 楽しみながら運動に取り組める工夫により、運動することの楽しさを味わう児童が増えた。「できた」「伸びた」という実感を味わえる機会が増えたことが自信につながり、友達と励まし合ったり、より深くかわれるようになったりする姿が見られるようになった。 以上のような、若手教員の指導力向上と児童の体力向上の取組みにより、学習と運動の両面から「できた」「わかった」「うれしい」と児童に実感させ、自信を持たせることで、たがいに認め合い、高めあいながら、学習する態度が育ち、本校の教育目標である「生き抜く力」の育成につなげることができた。</p>
<p>【研究発表の日程・場所】 (日程) 平成 26 年 1 月 22 日 (場所) 大阪市立榎本小学校</p>